

2015年(平成27年)

6/11(木)

Thursday

きょうの

発言

私は1954年の戦後生まれですが、先般逝去した父親からは長崎原爆のきのこ雲の恐ろしさや、敗戦の日の混乱を何度も聞かされ、自身の祈念日として胸に刻んでいます。

そしてもう一つ、忘れてならない日があります。戦争末期の沖縄戦が終結したとされる6月23日の「慰霊の日」です。

熊本からも毎年、沖縄には多くの学校が修学旅行に訪れま

高谷 和生 くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク事務局長

平和のバトン

す。コバルトブルーの海や世界遺産となった首里城の悠久の歴史、美ら海水族館での巨大なジンベエザメとの出会いなど、一生の思い出になっていることでしょう。

また、ひめゆり学徒隊の証言や平和祈念公園での日米戦没者への慰霊は、70年前に起きた沖縄戦の惨劇を現地で体験する場です。

しかし、帰熊後、沖縄で感じた「平和への思い」が熊本と結びつかず、持続できているとは必ずしも言えません。時間かせぎの沖縄戦の最中、

天草では本土決戦に備えて砲台や特攻艇基地が造られました。

熊本にあった飛行場が中継基地となり、沖縄への特攻攻撃が6月22日まで続きました。沖縄の悲劇を熊本と関連づけることで、戦争の悲惨さもより強く伝わるのではないのでしょうか。

県内では戦跡を保存している各団体が戦後70年の今夏、熊本での戦争を知る戦時資料(遺物)の収集を進めています。戦争遺産資料を通して、未来を担う子どもたちに平和のバトンをしっかり手渡していきたいと思えます。

2015.6.11